

広畑タイムズ

家庭と学校をつなぐ二小便り

令和元年9月6日発行
第297号
大野第二小学校
校長 千葉英一



生きていたい!

(『トットちゃんとトットちゃんたち』黒柳徹子著)

エチオピアの空港に着いたとき、出迎えに来て、私に花を渡してくださった14歳の女の子がいました。サラマウィットちゃんです。

かつてストリート・チャイルドだった彼女は、5歳のとき、ユニセフの写真家に、「君は大きくなったら、何になりたい?」と聞かれて、「生きていたい。」と答えたのです。

ふつう女の子は、「何になりたい?」と聞かれたら、「スチュワーデスになりたい。」とか、「お嫁さんになりたい。」とか、何か希望があるはずですが、「大きくなるまで生きていたい。」と答えたのです。この子の顔写真とこの言葉、「生きていたい」は、

ユニセフのポスターになりました。これは、こういう状況のなかにある、すべての子どもを代表している言葉のように思えます。

運よく14歳まで成長したサラマウィットちゃんに、私は9年前と同じ質問をしてみました。彼女は、ほほえみながら、「お医者さんになって、子どもたちの病気を治してあげたいです。」と答えました。



ストリート・チルドレン

昨年3月、東京都目黒区で、当時5歳だった、船戸結愛(ゆあ)ちゃんが、両親の虐待が原因で死亡した事件の公判が現在行われています。記憶に新しいこの事件の衝撃的だったことは、結愛ちゃんが虐待をする両親に対して書いた手紙でした。「ままもう パパとママにいわれなくても しっかりと じぶんからきょうよりかもっともっとあしたはできるようにするから もうおねがい ゆるして ゆるしてください おねがいます もうおなじことはしません ゆるして」この言葉を公判で検事が読み上げたとき、被告の母親はどんな気持ちになったのでしょうか?

たった5歳の子どもがこんなことを書かなくてはならないほど追い詰められている状態。極限状態どころではありません。結愛ちゃんはきっとパパとママのことが好きだったのだと思います。そして、生きていたかったのだと思います。結愛ちゃんが虐待されず、または保護されて命が助かっていたとしたら。結愛ちゃんにはどんな未来が待っていたのでしょうか、どんな未来を作り上げてくれたのでしょうか。



難民キャンプで水を運ぶ少年

東日本大震災の津波や堤防の決壊で流され、命を失い、未だ行方不明の。たくさん子どもたち。みんなきっと『生きていたかった』に違いありません。この世に生まれてきて、意味のない命なんてありません。生きているのがムダだなんてことは絶対にありません。この最も大切なことを、大人は子どもたちに、心にしみるように教えていかななくてはなりません。何かができることよりも、生きていることこそが、尊いのだということ。

暑い日のことでした

夏休みのある日、農園の作物に水やりをして、校長室で新聞を読んでいるときでした。何気なく見た故人のお知らせ欄に、大学の友人の名前がありました。住所、年齢も同じです。信じたくなくて、世の中には同姓同名なんてたくさんいるはずだと、見ないふりをしていました。しかし、どう



にも気になって電話をしてみると奥さんが出て、間違いないといいます。一瞬にして40年近い昔のことがたくさん思い出され、いても立ってもいられなくなりました。奥さんを励まし、式に参列することを伝え、斎場に電話して花を供え、弔辞を書き始めました。5分くらいの話だったらすぐに書ける私ですが、いろいろなことが鮮明に思い出されて、結局書き上げたのはその日の夕方でした。

生まれ故郷を離れて奥さんの地元に移り住み、仕事も変えて努力し、3人の子どもたちを小学校教諭に育て上げたSくん。小学校から野球を始め、中学校の時は県大会に、高校の時は軟式野球で国体に出場したSくん。飲み込みの悪い私に、丁寧に野球を教えてくれたSくん。底抜けに優しくかったSくん。人を笑顔にすることが大好きだったSくん。

彼はきっと、生きていたかったと思うのです。もう少し優しくなくて、子どもたちも手がかかったとしても、生きていたかったと思うのです。この若さで命数を使い果たしたとは思いたくありません。Sくんが病に勝てなかったことを悔しく思うのとともに、誰かのために精一杯生きてきた彼の冥福を心から祈った、暑い一日でした。

1968年に学者が考えた50年後の世界

- △ 核増殖反応炉が電力供給源になる。
 - × 国家が経済を完全にコントロールする。
 - × 雷の抑制が可能になっている。
 - ◎ 大規模な気候の急変が知らぬ間に影響を及ぼす。
 - ◎ 人類は月には行かなくなり、気象・通信衛星がたくさん地球を回っている。
 - ◎ 光ファイバーと衛星通信により、膨大な情報ネットワークに携帯機器でアクセスしている。
 - ◎ デジタル化された個人情報管理操作される。
 - エレクトロニクスは教育に革命を起こすが、人類の欠点の問題を解決することはない。
- 「2018年に向けて」ジョン・ケネス・ガルブレイス他



先日子どもたちに難しい話をしたとき、手塚治虫さんや円谷英二さんには未来が見えていたという話をしました。例えば、「ウルトラマン」の科学特捜隊は遠距離との通信をバジの音声で行います。「ウルトラセブン」のウルトラ警備隊は、腕時計のふたを開けてテレビ電話で通信します。どちらも携帯電話、スマホと考えられなくもありません。手塚治虫さんはロボットに仕事を奪われ社会を制御される未来を漫画に描きました。

子どもたちが社会の中心となっているであろう40年後。どのような未来が彼らを待っているのでしょうか？極度にデジタル化され、AIに支配されている社会でしょうか？地球温暖化が著しく進み、気象の急変による災害が頻発する自然でしょうか？

私たちはどんな世の中を子どもたちに残していくのでしょうか？